

薄毛は他者にどのような印象を与えるのか —男性型脱毛症に対する印象形成—¹⁾

鈴木公啓*

Impression Formation of Male Pattern Baldness

Tomohiro SUZUKI*

This study investigated the influence of male pattern baldness on the impression of men among adult Japanese men and women. Participants were 79 men and 87 women (mean age = 39.17, *SD* = 10.75, range: 20-59). They rated 4 types of photographic stimuli based on the Modified Norwood-Hamilton Scale (Takashima et al., 1981) on several dimensions of impressions. Analysis showed that the amount of cranial hair influenced impressions of photographic stimuli. Results showed that baldness was perceived to be a sign of senescence. Furthermore, baldness was perceived to demonstrate several features (e.g., social maturity), an attribute relevant to senescence. Neither sex nor age of the participant influenced the differences in impression of photographic stimuli.

key words: impression formation, male pattern baldness / male pattern hair loss / androgenetic alopecia, appearance, hair of head, stereotype

問 題

「薄毛(いわゆる日常における「禿げ;ハゲ)」は、脱毛症のことを指す日常用語である。薄毛は、男女問わず多くの人々の興味や関心を集めている事象である。薄毛対策のための商品やサービスは世の中にあふれており、マスメディアや街中で見かけることも多い。しかし、日常生活においては、触れてはいけない事象とみなされることも多い。後述のように、薄毛に対するネガティブなステレオタイプが薄毛である本人にも周囲の者にも存在するため、薄毛に関する話題がネガティブな感情を引き起こし、また、対人関

係にも影響を与えうるからである。

薄毛は、その外見的特徴から、自他共に目立つ特徴となる。髪(型)は容姿を構成する重要な一部である。髪は、衣服などで覆われていることは少なく、基本的には人目にさらされている。また、顔のすぐそばに位置し顔の上半分を囲んでいることから、注目を集めやすい。面積的にも、目や唇などの顔のパーツよりも比較的大きな範囲をしめる。そのため、髪(型)はそもそも人目につきやすく、注目を集めやすいものであり、髪型の一状態である薄毛も、人々の視線を集めるものとなりうる。

薄毛が自他に及ぼす影響は大きく、そして、その影

¹⁾ 本研究は、東京未来大学特別研究助成の助成を受けた。

* 東京未来大学こども心理学部

School of Child Psychology, Tokyo Future University, 34-12 Senjuakebono, Adachi, Tokyo 120-0023, Japan

響の大きさから、薄毛の人が有する薄毛についての悩みも、大きなものとなりうる。しかし、男性の薄毛は、外見の中でも注目を浴びにくいテーマであり (Butler, Pryor, & Grieder, 1998), 薄毛は “blind spot” として無視されている (Cash, 1990)。薄毛が自他に及ぼす心理的影響についての学術的な検討はほとんどおこなわれていないのが現状である。

しかし、薄毛は、社会的にも学術的にも重要なテーマの1つと考えられる。坪井(2008)が言及しているように、薄毛は外観による印象形成において大きな影響を有しており、社会生活の中でのストレスに強く関連する。また、須長(1999)も、ハゲにはマイナスイメージが付与されていることを指摘している。このような状況において、薄毛に関わる心理の検討は、薄毛という現象についてどのような認識がなされているのかを明らかにするだけでなく、世の中に存在するスティグマの一端を明確にすることにもつながると考えられる。

そこで本研究は、薄毛に対する印象形成について明らかにすることを目的とする。薄毛は女性においても生じ、女性における薄毛も深刻な問題といえるが、現状として、男女ともに薄毛に係わる印象についての心理学的知見は乏しい現状にある。このような状況において、まずは、古くから顕在化していた男性の薄毛の問題に焦点をあてて検討するのは意義があると考えられる。また、海外においてもわずかに薄毛の印象についての研究は行われており、そこでは男性が対象とされている。それらとの比較という点でも、男性について検討することは有用であろう。そこで本研究では、男性に認められる薄毛の実態等について概観したうえで、男性の薄毛の印象形成について論を展開する。そして、男性の薄毛の印象についての基礎的知見を得ることとする。

薄毛の実態および分類

薄毛の1つである男性型脱毛症 (Male pattern Hair Loss または Male Pattern Baldness) は、男性において、思春期以降にはじまり徐々に進行する脱毛症である。日本人の場合は、20代後半から30歳代にかけてははっきりしはじめ、徐々に進行し、40代以降に完成する (坪井・板見・乾・植木・勝岡・倉田・幸野・齋藤・真鍋・山崎, 2010)。日本人男性の発症頻度は平均で約30%であり (板見, 2004, Takashima, Iju, Sudo, 1981), その発症には遺伝と男性

ホルモンが関連していることが知られている (Hamilton, 1942)。なお、株式会社アデランス (2009) は、目視により世界21か国の成人男性の薄毛の割合について調査をおこなっており、日本は26.78%であり、調査国平均の32.13%よりも低値ではあるが、アジアの中では最も高かったとしている。

男性型脱毛症は、基準に則り分類および診断がおこなわれる。海外では、Hamilton分類 (Hamilton, 1942) を改訂した Norwood-Hamilton分類 (Norwood, 1973) が用いられている。日本では、それをさらに改訂した分類である Modified Norwood-Hamilton分類 (Takashima et al., 1981) が広く用いられている。この分類では、多少のバリエーションを有しながら基本的には、薄毛の進行具合を反映した7段階 (タイプI~VII。ナンバーが大きい方が薄毛が進行している状態) で薄毛が分類されている。

薄毛に対する印象

髪型によって印象が異なることが知られているように、薄毛によっても印象が異なるのは不思議なことでは無い。特に、元々あった場所に髪が無いという状態であるため、その「無い」ということに意識が向けられやすい可能性がある。

これまでのいくつかの調査により、薄毛の人は、薄毛によって特定の印象を他者に与えてしまうことを懸念していることが示されている。大正製薬株式会社ブランドコミュニケーション部 (2012) は、男性は薄毛であることを恥ずかしいと思い、老けて見られたり、女性からの人気が無くなったり、恋愛や結婚の妨げになると考えていることを明らかにしている。また、薄毛であることが結婚や恋愛に影響すると考えている者がそれぞれ66.2%と77.8%であり、少なく無い割合であることも示している。ファイザー株式会社 (2015) は、男性が薄毛になっていることで、女性からの視線を気にし、また、異性交際について気にしていることを明らかにしている。そして、須長 (1999) はインタビュー調査により、薄毛の男性が、恋愛や結婚に及ぼす影響を懸念していたことを述べている。このように、薄毛の人は、薄毛であることが、特に異性を中心とした、他者が有する印象に影響を及ぼすことを懸念していることがうかがえる。なお、女性を対象とした調査からも、男性の残念な外見として薄毛を挙げるものが多く、また、異性選択場面において、男性の薄毛が影響すると考える者が多いこ

とが示されている（大正製薬株式会社ブランドコミュニケーション部，2012）。

これらの調査結果を概観すると、以下のことが言える。男性の多くが薄毛を良くないものと認識し、若さの低下や、異性からの評価の悪化につながるものとして懸念している。また、女性の側からも、交際相手として薄毛の男性は避ける傾向がある。このように、男性の薄毛に対する印象は男性自身からも異性からも決して良いものとは言えないようである。

上述のように、特に異性からの評価に対して薄毛が重要な意味を有していることが示唆されているが、そもそも薄毛であることにより、実際にどのような印象を男女ともに形成しているのであろうか。薄毛であると、実際に若くないと評価されたり、魅力的で無いと評価されるのであろうか。

薄毛の印象については、海外においていくつかの検討がおこなわれてきている。例えば、Hankins, McKinnie, & Bailey (1979) は、身体的特徴が印象に及ぼす影響の検討の中で薄毛も扱い、薄毛は印象に影響を及ぼさないことを示している。しかし、刺激が文章による呈示であり、絵や写真など視覚的なものでは無いという問題がある。Roll & Verinis (1971) は、スケッチを用いて普通、薄毛進行中（薄毛になってきている）、そして薄毛の印象を比較し、結果、普通であればハンサムで、強く、活動的であるなどの第一印象を有し、また、薄毛進行中であると親切で、弱く、活動的でないといった第一印象を有すること、そして、薄毛であれば最も評価が悪いといったことを明らかにしている。ただし、先に研究目的を参加者に伝えてしまっているという問題が認められる。

それ以降は、薄毛の印象について、写真を扱った研究がおこなわれ、いくつかの知見が得られている。例えば、Butler et al. (1998) は、髪があると薄毛に比べて支配的でダイナミックで男性らしく、そして若い印象を有するが、魅力については異ならないことを示している。Cash (1990) は、ノーウッド分類 (Norwood, 1973) に準じた複数の写真を用いて、薄毛条件と普通条件との印象の比較をおこなっている。その結果、薄毛の方が身体的魅力が低く、人生も成功せず、また、性格も否定的に推測されることを示している。なお、年齢と評価者の性別の影響の検討もおこなっており、その評価内容によって年齢の影響

の方向が異なること、また、性差は一部の内容を除き見られないことを明らかにしている。Wogalter & Hosie (1997) は、薄毛と髭が印象に及ぼす影響を検討し、薄毛は、年齢と知性の推測に影響を及ぼしていることを示している。さらに、Muscarella & Cunningham (1996) は進化論的観点な考えに基づいた multiple fitness model (e.g., Cunningham, Barbee, & Pike, 1990) をふまえたうえで、髪が魅力などに及ぼす影響を検討している。そして、薄毛になっていくと、社会的成熟具合や年齢が高く推測され、また、攻撃性と魅力が低く推測されることを明らかにしている。これらの推測された特徴は、いずれも加齢の現れと考えられている。薄毛が加齢のシグナルとなり、それに伴う諸特徴の推測にも影響が生じたとされている。また、Sigelman, Dawson, Nitz, & Whicker (1990) は政治家候補者のパンフレットという設定で、薄毛の写真とカツラで整えた写真を提示し、薄毛の方が年齢が高く評価されるが、性格の推測や、投票するかどうかには違いが認められないことを示しており、必ずしも薄毛の影響があらゆる側面や場面において確認されるわけではないことを示している。

このように、薄毛は、必ずしもすべての側面で、また、あらゆる場面でネガティブな印象をもたらすわけではない。ある側面では肯定的に評価されることがあることも示されている。状況の影響も想定される。なお、評価する側の性差は基本的には認められていない。

なお、容姿や装いに対する印象の形成には、文化の影響も大きい。文化によって何を美しいとするかは異なっており、髪型や薄毛の印象形成についても、文化の影響が生じている可能性はある。先述のとおり、そもそも国によって薄毛の割合が異なっている（株式会社アデランス，2009）こともあり、国や文化によって薄毛への印象が異なる可能性はある。一方、薄毛が生理的な現象であり、ヒトに基本的には共通してみられる現象でもあることから、印象形成に共通する部分が存在することも考えられる。この点について明らかにするためにも、日本における薄毛の印象形成について検討し、そこで得られた知見が他の人種や文化において確認されたものと同様であるか確認することは意義あることと考えられる。

目的

本研究は、日本人男性の薄毛が印象形成に及ぼす影響について明らかにすることを目的とする。薄毛は加齢に伴い生じる現象であることから、薄毛が進行している状態であるほど、加齢に伴う諸特徴もより強く推測されるものとなる。つまり、加齢に伴う変化である性的魅力の減衰や、支配性の減衰、社会的パワーの増進などが、加齢に伴う特徴として薄毛から推測されることとなる (e.g., Muscarella & Cunningham, 1996)。これらは従来の欧米での研究において確認されているが、幼形化の強いアジア人 (Morris, 2005) においても同様の現れ方をするかどうかは不明である。そこで、本研究では、日本人においても、同様の薄毛の影響が確認されるのか検討することとする。

薄毛の影響を検討するにあたり、基準に則って薄毛の程度を要因として扱うことが有用といえる。従来の研究においては、薄毛の状態を Norwood-Hamilton 分類 (Norwood, 1973) などの基準に対応させて検討しているものは少ない。さらに、薄毛の進行中の段階の違いを考慮した検討は行われていない。そこで、薄毛の進行中における複数の段階を、基準に則ったうえで設定し検討する。

なお、評価する側の性別が評価に影響するか否かについても検討する。このことにより、薄毛が印象に及ぼす影響が、異性に限定された異性選択という側面でのみ有効なものなのか、性別関係なく薄毛のステレオタイプとして存在しているのかについて明らかにすることができると考えられる。先述のように、Cash (1990) などによって、評価者側の性差が無いことが指摘されているが、日本でも同様であるか確認する。さらに、評価者の年齢が評価に影響しているか否かについても併せて検討する。

方 法

対象

日本に居住する 20 歳から 59 歳の男性 79 名、女性 87 名の計 166 名 (平均年齢 39.17, $SD=10.75$) のデータを分析に使用した。なお、各年齢層の人数は同程度になるように、また、性別についても、人数が同程度になるように指定したうえで、web 上での調査依頼の配信がおこなわれるようにして実施した。

実験刺激

4 種類の写真を刺激として使用した。Modified Norwood-Hamilton 分類 (Takashima et al., 1981) を基準とし、成人男性 (撮影時 42 歳) の写真を、タイプ I、タイプ III、タイプ V となるように加工し刺激を作成した。タイプ I は、薄毛でない髪の状態である。タイプ III は、薄毛が進行した状態であり、タイプ V はさらに薄毛が進行した状態である。また、髪をすべて無くした状態 (所謂スキンヘッド。以降、タイプ N) も作成した。なお、実施時にはカウンターバランスをとって刺激を呈示した。Modified Norwood-Hamilton 分類 (Takashima et al., 1981) のタイプ I、タイプ III、タイプ V の例を APPENDIX 1 に示す。

評価内容

従来の印象形成の研究 (e.g., 林, 1978) を考慮しながら、薄毛の印象形成に関する研究 (e.g., Muscarella & Cunningham, 1996) における分類と項目内容などを参考に、薄毛の印象評価に適していると考えられた内容を選定し、最終的に 10 項目の形容詞対を評価項目として作成し実施した。7 件法で両端を「非常にあてはまる (1 点もしくは 7 点)」, 中央を「どちらでもない (4 点)」として回答を求めた。評価項目の内容は Table 1 に示す。なお、一般的にポジティブとされている方向性に得点が高くなるように集計をおこなった。

調査時期および手続き

2015 年 11 月に調査会社を介してインターネット調査を実施した。なお、回答者にはポイントが付与された。

結 果

はじめに、それぞれの評価項目について、各刺激間での評価に違いがあるか、また、刺激間の違いに評価者の側の性別や年齢が影響しているか、つまり刺激を含む交互作用が生じているか、検討をおこなった。なお、年齢については、20 代および 30 代を年齢低群、また、40 代と 50 代を年齢高群として分析に使用した。

刺激 (4) × 性別 (2) × 年齢 (2) の 3 要因分散分析をおこなったところ²⁾、「親しみやすい」、「真面目な」、「知的な」、「若い」、「自信がある」、「社会的地位が高い」において、刺激の有意な主効果が確認され

Table 1 各刺激における項目得点の平均値および標準偏差

	親しみやすい (親しみにくい)		真面目な (不真面目な)		社交的な (非社交的な)		知的な (知的でない)		若い (若くない)	
	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD
I	3.56	(1.10)	4.42	(0.97)	3.67	(0.97)	3.87	(0.93)	3.01	(1.25)
III	3.39	(1.18)	4.21	(1.05)	3.77	(0.89)	3.64	(0.98)	2.75	(1.16)
V	4.13	(1.09)	4.47	(0.91)	3.86	(0.95)	4.01	(0.82)	2.65	(1.22)
N	3.81	(1.31)	4.41	(0.93)	3.87	(0.99)	4.06	(0.85)	2.72	(1.36)
	自信がある (自信がない)		魅力的な (魅力的でない)		セクシーな (セクシーでない)		男性的 (女性的)		社会的地位が高い (社会的地位が低い)	
	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD
I	3.89	(0.92)	2.88	(1.21)	2.87	(1.64)	5.09	(1.17)	3.63	(0.84)
III	4.02	(1.00)	2.93	(1.35)	2.75	(1.47)	5.19	(1.17)	3.64	(0.80)
V	3.80	(1.17)	3.07	(1.43)	2.81	(1.51)	5.08	(1.22)	3.78	(0.79)
N	4.06	(1.15)	3.08	(1.41)	2.87	(1.60)	5.15	(1.34)	3.84	(0.87)

注) 得点が高いほど、ラベルの上段の内容にあてはまり、得点が低いほど下段の括弧内の内容にあてはまるように得点化している。

た。刺激を含む交互作用は性別と年齢ともに確認されなかった³⁾。刺激の有意な主効果が認められたものについて多重比較(ボンフェローニ法)をおこなった。「親しみやすい」において、タイプ I, III, N に比しタイプ V が有意に高値であり、また、タイプ III に比しタイプ N が有意に高値であった。「真面目な」においては、タイプ III に比しタイプ V が有意に高値であった。「知的な」においては、タイプ III に比しタイプ I, V, N が有意に高値であった。「若い」においてはタイプ III と V に比しタイプ I が有意に高値であった。「自信がある」においては、多重比較の結果としては有意差は認められなかった。「社会的地位が高い」においては、タイプ I, III に比しタイプ N が有意に高値であった。

年齢と性別をプールした刺激の各水準の平均値および標準偏差を Table 1 に示す。また、分散分析および多重比較の結果を Table 2 に示す。なお、年齢および性別毎の各水準における平均値および標準偏差は APPENDIX 2 に示す。

考 察

本研究では、日本人男性の薄毛が印象形成に及ぼす影響について明らかにすることを目的とした。以降、印象形成の差異が認められた内容を中心に考察をおこなう。

はじめに、刺激間の違いが認められた内容について考察する。まず、若さにおいて、刺激間の違いが認

められ、薄毛であるほど若くない印象を持たれることが示された。これは、薄毛が加齢に伴う現象であり、そのことが知識や経験として共有されているため、薄毛の程度がそのまま若さの認知に反映されたものだと考えられる。これは従来の研究と同様の結果で有り、日本においても、薄毛が加齢に対応した明確な指標として機能していることが確認されたといえる。

²⁾一般的には、全条件をプールし次元を1つ潰した得点にて因子分析をおこない、下位尺度を構成したうえで、条件間の比較がおこなわれることが多い。しかし、今回、当該の方法で因子分析をおこなった結果から作成された下位尺度内に含まれるすべての項目の得点が、条件間で同じパターンで異なるわけではないことが確認された。つまり、下位尺度内の項目1は、A条件、B条件、C条件の順に大きいのが、項目2はそうではない、といった内容である。そもそも、これまでも言及されてきたように、3次元データを2次元データに圧縮している段階で不適切さが生じているため、その方法自体に問題があるといえる(e.g. 豊田, 2001)。そこで本研究では、あえて項目単位で条件間の分析をおこなうこととした。

³⁾なお、「真面目な」と「魅力的な」に性別の主効果が認められ、女性の方が高値であった。「若い」「男性的な」「社会的地位が高い」に年齢の主効果が認められ、年齢高群の方が高値であった。「セクシーな」には年齢と性別の交互作用がみられ、単純主効果検定の結果、年齢高群において女性の方が高値で、男性において年齢高群が高値であった。

Table 2 各項目における分散分析の結果

	親しみやすい (親しみにくい)	真面目な (不真面目な)	社交的な (非社交的な)	知的な (知的でない)	若い (若くない)
性別 (A)	F (1, 162) = 2.28	F (1, 162) = 4.88*	F (1, 162) = 1.56	F (1, 162) = 0.07	F (1, 162) = 2.36
年齢 (B)	F (1, 162) = 0.37	F (1, 162) = 0.02	F (1, 162) = 2.53	F (1, 162) = 0.21	F (1, 162) = 5.24*
刺激 (C)	F (2.76, 447.52) = 19.58**	F (2.82, 457.02) = 3.59*	F (2.73, 442.98) = 2.56	F (2.67, 432.83) = 11.41**	F (2.46, 398.69) = 5.76**
(A) × (B)	F (1, 162) = 0.40	F (1, 162) = 0.95	F (1, 162) = 0.48	F (1, 162) = 0.05	F (1, 162) = 0.66
(A) × (C)	F (2.76, 447.52) = 0.16	F (2.82, 457.02) = 0.22	F (2.73, 442.98) = 0.89	F (2.67, 432.83) = 0.15	F (2.46, 398.69) = 1.24
(B) × (C)	F (2.76, 447.52) = 0.44	F (2.82, 457.02) = 2.51	F (2.73, 442.98) = 1.20	F (2.67, 432.83) = 1.06	F (2.46, 398.69) = 0.04
(A) × (B) × (C)	F (2.76, 447.52) = 0.33	F (2.82, 457.02) = 0.45	F (2.73, 442.98) = 0.40	F (2.67, 432.83) = 0.43	F (2.46, 398.69) = 1.57
Cにおける多重比較	III, I, N < V : III < N	III < V	III < I, V, N	III < I, V, N	V, III < I
	自信がある (自信がない)	魅力的な (魅力的でない)	セクシーな (セクシーでない)	男性的 (女性的)	社会的地位が高い (社会的地位が低い)
性別 (A)	F (1, 162) = 0.73	F (1, 162) = 4.61*	F (1, 162) = 2.69	F (1, 162) = 0.02	F (1, 162) = 0.10
年齢 (B)	F (1, 162) = 2.90	F (1, 162) = 3.70	F (1, 162) = 0.71	F (1, 162) = 5.91*	F (1, 162) = 5.69*
刺激 (C)	F (2.81, 454.8) = 3.58*	F (2.67, 432.84) = 1.81	F (2.66, 430.69) = 0.54	F (2.64, 427.27) = 0.66	F (2.86, 463.84) = 4.79**
(A) × (B)	F (1, 162) = 3.09	F (1, 162) = 0.54	F (1, 162) = 4.38*	F (1, 162) = 2.01	F (1, 162) = 1.54
(A) × (C)	F (2.81, 454.8) = 0.38	F (2.67, 432.84) = 0.75	F (2.66, 430.69) = 0.30	F (2.64, 427.27) = 0.51	F (2.86, 463.84) = 0.45
(B) × (C)	F (2.81, 454.8) = 0.86	F (2.67, 432.84) = 1.39	F (2.66, 430.69) = 1.14	F (2.64, 427.27) = 0.33	F (2.86, 463.84) = 0.91
(A) × (B) × (C)	F (2.81, 454.8) = 0.40	F (2.67, 432.84) = 0.60	F (2.66, 430.69) = 1.21	F (2.64, 427.27) = 0.08	F (2.86, 463.84) = 0.26
Cにおける多重比較					I, III < N

注) I : タイプ I, III : タイプ III, V : タイプ V, N : 髪をすべて無くした状態。

**p < .01, *p < .05

真面目さや知的さ、そして社会的地位にも刺激間の違いが認められた。真面目さについては、薄毛が進行した状態であるほど真面目という印象が持たれることが示された。知的さについては、薄毛の進行し始めた段階は知的でないという印象が持たれていた。しかし、薄毛が進行していたり髪が無い状態は、髪がある状態と同様の印象であることが示された。そして、社会的地位については、髪が無い状態が最も社会的地位が高いと評価されていた。全体としては、薄毛が進行していたり髪が無い状態は、必ずしも髪がある状態に比べネガティブな印象を持たれないこと、場合によっては良い印象を持たれることが示された。

これらの指標は、Muscarella & Cunningham (1996)で扱っている社会的成熟に対応する概念といえる。このことから、薄毛において文化を超えて共通する、評価の軸が存在することが示され、そして、その一つが社会的成熟という、加齢に付随する内容であることが示唆されたといえる。社会的成熟は、加齢にともなう社会集団内での地位の向上の反映といえることができる。Wogalter, & Hosie (1997)なども述べているように、薄毛は年齢を重ねたこと示し、そしてそれは人生の経験が多いことを示唆する。人生経験の多さの推測が、社会的成熟に関する特徴を喚起したといえる。なお、真面目さや知的さ、社会的地位の条件間の差異のパターンは、完全に同一ではなかった。これには、薄毛という状態がそれぞれの印象に及ぼす影響の強さの違い、また、後でも述べる刺激人物の髪形や相貌による影響の交絡などが原因として考えられる。

親しみやすさといった内容にも、刺激間の違いが認められた。これは、Muscarella & Cunningham (1996)で扱っている緩和に対応する概念といえる。攻撃性の逆を反映している概念ともいえる。緩和も、加齢に付随する内容であり、そして文化を超えて存在する軸といえる。なお、基本的には薄毛であるほど評価が高いという結果であったが、髪が無い状態は、薄毛がかなり進行した状態よりは評価が良くないという結果であった。これは、従来日本において、いわゆるスキンヘッドに対して攻撃性に関わるネガティブな印象が有されていたことがあり、それがポジティブな印象を若干抑制する方向に影響した可能性が考えられる。

ともあれ、今回の社会的成熟と緩和についての結果からは、必ずしも薄毛によりネガティブな影響のみが生じるのではなく、集団からの評価の向上や受容に係わる適応的な影響も存在することが示唆されたといえる。

ところで、魅力やセクシーさやジェンダーなど、Cash (1990)やMuscarella & Cunningham (1996)で示されたような、身体的魅力(性的魅力)についての刺激間の差は認められなかった。つまり、薄毛の程度によって、性的魅力の判断は異ならないということである。これは、従来の研究とは異なった結果である。日本では諸外国と異なり、薄毛がそもそも性的魅力に影響を及ぼさないとといった文化の違い、また、そもそも性的魅力などの基準や位置づけが欧米とは異なっていることなどが影響している可能性がある。また、先述のように、日本においては薄毛が異性に対して良い印象を与えないという危惧が存在することが示されてはいるが、今回は異性交際などを前提としていなかったために、性的魅力について特段にネガティブな影響が生じなかった可能性もある。

なお、タイプNは、実際に当人が薄毛であるか否かは不明な髪型であるが、少なくとも、社会的成熟といった印象を与えうることが示されている。このことから、薄毛によるネガティブな印象を懸念するのであれば、薄毛にはじめた際に所謂スキンヘッドや坊主頭にするにより、ネガティブな評価を回避するといった方略が有用である可能性も示唆される。薄毛になった者が、スキンヘッドにすることによって、精神的に好転したという言及がなされることもある(新井, 2012)。また、一昔前と異なり、スキンヘッドが髪型の1つとしてある程度は社会に認められるようになってきている。そのため、スキンヘッドや坊主頭にするという対処法は、薄毛で印象が悪くなると懸念している人々にとって役立つ可能性はある。

評価者の側の性別は、刺激間の評価の違いに影響していないことが明らかになった。Cash (1990)においても、一部を除き性別の影響が認められていない。本研究の結果からも、薄毛の進行に対する印象の変化については、男女で共有化されたものが存在することが確認されたといえる。つまり、女性の側のみ生じるものではなく、性別を超えて生じるものであり、男性の加齢に対するバロメータであると同時に

にステレオタイプを人々に形成させるものであるといえる。

つまり、ネガティブなステレオタイプ、言い換えると一種のスティグマが存在し、男性と女性の両者から、男性が不当な評価を受ける場合がある可能性を示している。従来、女性の外見におけるステレオタイプとその問題がしばしば注目を集め、特に、体型などを中心に、心理学や社会学において議論がなされてきた。しかし、男性におけるステレオタイプによる不当な評価については、“blind spot”として十分に検討されてこなかったといえる。今回の研究により、薄毛によるステレオタイプが存在する可能性を示唆できたといえる。

ただし、先述のように、今回は異性選択の場面は考慮していない。今回、身体的魅力(性的魅力)についての刺激間の差は認められなかったが、もし、異性選択の場面を設定した場合は、女性側からの評価が今回と異なる様相になる可能性はある。この点は、今後検討していくことが大事であろう。

ところで、年齢も刺激間の評価の違いに影響していないことが明らかになった。つまり、年齢が高いほど自身や身の回りに薄毛である人が増えることによりネガティブな評価をおこなわなくなる、といったことは生じていないということである。Cash (1990)では年齢の影響が確認されているが、国や文化により社会での受け止め方が異なっているのみならず、人種により年齢による薄毛の進行具合も異なっているため、それが結果の違いに影響した可能性もある。

問題点および今後の課題

ところで、本研究には主に2つの問題点があると考えられる。1つは、推定された年齢の影響を扱っていない点である。そもそも、印象の評価には刺激対象をどの程度の年齢と認識するかが影響している可能性がある。薄毛の程度による印象の差異が、薄毛による年齢の推定をもとにおこなわれているのか、もしくは、薄毛という見た目によって直接的に喚起するのか、そのプロセスは不明である。今回の結果において、条件間の若さの推測の差異のパターンと、他の印象における推測のパターンは必ずしも対応はしていない。年齢の推定を経ない薄毛の直接的影響の存在

も考えられる。なお、今回のように、年齢を他の内容と同様に抽象的な項目で尋ねると、そもそも何歳を若いとするかといった評価の交絡が生じてしまう可能性が残る。上記のプロセスの検討の際には、推定した年齢を数値で尋ね統制したうえで、刺激間の印象の比較をおこなうことが有用であろう。

もう1つは、刺激の問題である。今回作成した刺激は、4パターンとも全体的に髪が比較的短めの状態としている。同じ薄毛の段階であっても、髪型によって、異なった印象を生じさせる可能性は極めて高い。さらに、薄毛を隠すような特徴的な髪型など⁴⁾であれば、特徴的な印象を形成する可能性もある。あくまでも、今回の結果は、今回の刺激の髪型で得られた結果であるということに留意する必要がある。なお、人物の相貌との組み合わせによって、髪型の印象も変わってくるであろう。今後、他の髪型、そして他の人物を刺激とした検討が重ねられることが望まれる。

ところで、薄毛についての悩みは男性のみならず女性においても見受けられることが知られている(株式会社ナガセビューティケア, 2015; 株式会社リクルートスタイル, 2014)。そして、女性の薄毛の印象形成は、男性のそれとは異なっている可能性もある。そこには、年齢意識についての性差が反映される可能性も考えられる。今後、男性のみならず女性の薄毛を対象とした検討も必要といえよう。

引用文献

- 新井キヒロ 2012 ぼくは髪の毛が少ない メディアファクトリー。
- Butler, J., Pryor, B., & Grieder, M. 1998 Impression formation as a function of male baldness. *Perceptual and Motor Skills*, **86**, 347-350.
- Cash, T. F. 1990 Losing Hair, Losing Points?: The Effects of Male Pattern Baldness on Social Impression Formation. *Journal of Applied Social Psychology*, **20**, 154-167.
- Cunningham, M. R., Barbee, A. P., & Pike, C. L. 1990 What do women want? Facialmetric assessment of multiple motives in the perception of male facial physical attractiveness. *Journal of Personality and Social Psychology*, **59**, 61-72.
- ファイザー株式会社 2015 男性型脱毛症および男性のQOL疾患に関する意識調査
- Hamilton, J. B. 1942 Male hormone stimulation is a prerequisite and an incitant in common baldness.

⁴⁾例えば、薄毛以外の部分を長くしたうえでその髪の毛で薄毛の部分を隠すといった髪型などである。

American Journal of Anatomy, **71**, 451-480.

Hankins, N. E., McKinnie, W. T., & Bailey, R. C. 1979 Effects of height, physique and cranial hair on job-related attributes. *Psychological Reports*, **45**, 853-854.

林 文俊 1978 対人認知構造の基本次元についての一考察 名古屋大学教育学部紀要教育心理学科, **25**, 233-247.

板見 智 2004 日本人成人男性における毛髪（男性型脱毛）に関する意識調査 日本医事新報, **4209**, 27-29.

株式会社アデランス 2009 世界の成人男性薄毛調査レポート, Vol.8.

株式会社ナガセビューティケア 2015 働く女性の「薄毛」に関する意識調査

Morris, D. 2005 *The naked woman: A study of the female body*. NY: St. Martin's Press.

Muscarella, F., & Cunningham, M. R. 1996 The evolutionary significance and social perception of male pattern baldness and facial hair. *Ethology and Sociobiology*, **17**, 99-117.

Norwood, O. T. 1973 Charles, C(Ed.), *Hair transplant surgery*. 1st edition, Springfield, Illinois, USA: Thomas Publisher, Ltd.

Roll, S., & Verinis, J. S. 1971 Stereotypes of scalp and facial hair as measured by the semantic differential. *Psychological Reports*, **28**, 975-980.

Sigelman, L., Dawson, E., Nitz, M., & Whicker, M. L. 1990 Hair loss and electability: The bald truth. *Journal of*

Nonverbal Behavior, **14**, 269-283.

須長史生 1999 ハゲを生きる：外見と男らしさの社会学 勁草書房.

大正製薬株式会社ブランドコミュニケーション部 2012 男性の薄毛に関する意識調査

Takashima, I., Iju, M., & Sudo, M. 1981 Alopecia androgenetica. Its incidence in Japanese and associated condition. In Orfanos, CE, Montagna, W., & Stuttgen, G. (Eds), *Hair research, status and future aspects: Proceedings of the first international congress on hair research*. Hamburg, March 13 th-16 th, Berlin-Springer Verlag, p. 287-293

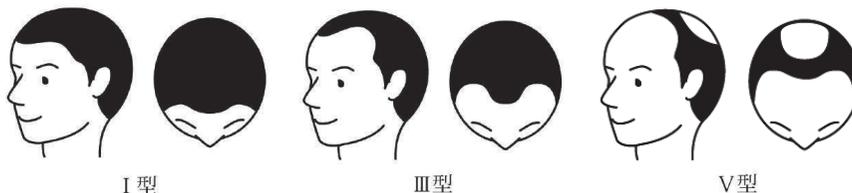
豊田秀樹 2001 探索的ポジショニング分析—セマンティック・デファレンシャルデータのための3相多変量解析法— 心理学研究, **72**, 213-218.

坪井良治 2008 男性型脱毛症 日本皮膚科学会雑誌, **118**, 163-170.

坪井良治・板見 智・乾 重樹・植木理恵・勝岡憲生・倉田荘太郎・幸野 健・齊藤典充・真鍋 求・山崎正視 2010 男性型脱毛症診療ガイドライン（2010年版） 日本皮膚科学会雑誌, **120**, 977-986.

Wogalter, M.S., & Hosie, J.A. 1991 Effects of cranial and facial hair on perceptions of age and person. *Journal of Social Psychology*, **131**, 589-591.

(受稿:2017.6.1; 受理:2018.3.20)



APPENDIX 1 Modified Norwood-Hamilton 分類の I 型と III 型と V 型の例

APPENDIX 2 年齢および性別毎の各水準における平均値および標準偏差

		男性									
		親しみやすい (親しみにくい)		真面目な (不真面目な)		社交的な (非社交的な)		知的な (知的でない)		若い (若くない)	
		M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD
年齢低	I	3.54	(1.02)	4.31	(0.95)	3.44	(1.12)	3.97	(1.16)	3.03	(1.29)
	III	3.44	(1.12)	4.18	(1.07)	3.69	(0.98)	3.67	(1.06)	2.46	(0.97)
	V	4.26	(1.02)	4.21	(1.06)	3.72	(1.02)	4.10	(0.99)	2.62	(1.18)
	N	3.74	(1.35)	4.13	(1.10)	3.90	(1.05)	4.03	(1.04)	2.59	(1.39)
年齢高	I	3.75	(1.08)	4.30	(0.91)	3.63	(0.77)	3.83	(0.90)	3.48	(1.28)
	III	3.65	(1.00)	4.00	(0.91)	3.78	(0.73)	3.55	(0.90)	3.15	(1.23)
	V	4.18	(0.90)	4.40	(0.67)	3.90	(0.74)	3.98	(0.73)	2.95	(1.34)
	N	4.08	(1.14)	4.48	(0.91)	3.83	(0.81)	4.15	(0.98)	3.05	(1.47)
		自信がある (自信がない)		魅力的な (魅力的でない)		セクシーな (セクシーでない)		男性的 (女性的)		社会的地位が高い (社会的地位が低い)	
		M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD
年齢低	I	3.87	(0.95)	2.97	(1.25)	2.87	(1.63)	5.38	(1.14)	3.44	(0.91)
	III	4.13	(1.17)	2.85	(1.35)	2.49	(1.25)	5.46	(1.14)	3.51	(0.85)
	V	3.90	(1.17)	2.90	(1.19)	2.62	(1.39)	5.33	(1.28)	3.54	(0.97)
	N	4.15	(1.25)	3.13	(1.34)	2.82	(1.62)	5.49	(1.39)	3.64	(1.09)
年齢高	I	3.93	(0.89)	3.25	(1.08)	3.30	(1.70)	4.70	(1.29)	3.75	(0.81)
	III	4.05	(0.96)	3.25	(1.17)	3.30	(1.51)	4.83	(1.26)	3.78	(0.86)
	V	3.83	(1.01)	3.50	(1.28)	3.15	(1.21)	4.78	(1.35)	3.95	(0.75)
	N	4.23	(0.83)	3.55	(1.20)	3.28	(1.32)	4.93	(1.35)	4.08	(0.80)
		女性									
		親しみやすい (親しみにくい)		真面目な (不真面目な)		社交的な (非社交的な)		知的な (知的でない)		若い (若くない)	
		M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD
年齢低	I	3.48	(1.16)	4.68	(1.11)	3.62	(1.03)	3.88	(0.90)	2.66	(1.21)
	III	3.24	(1.27)	4.40	(1.14)	3.80	(0.99)	3.76	(0.96)	2.70	(1.31)
	V	4.06	(1.15)	4.60	(1.03)	3.76	(1.12)	3.94	(0.84)	2.34	(1.22)
	N	3.72	(1.43)	4.50	(0.95)	3.80	(1.23)	4.00	(0.76)	2.54	(1.42)
年齢高	I	3.49	(1.12)	4.32	(0.82)	4.03	(0.87)	3.81	(0.74)	2.95	(1.10)
	III	3.27	(1.30)	4.22	(1.03)	3.81	(0.81)	3.54	(1.02)	2.70	(0.97)
	V	4.03	(1.28)	4.65	(0.72)	4.11	(0.77)	4.05	(0.66)	2.78	(1.06)
	N	3.70	(1.29)	4.51	(0.69)	4.00	(0.75)	4.08	(0.60)	2.73	(1.10)
		自信がある (自信がない)		魅力的な (魅力的でない)		セクシーな (セクシーでない)		男性的 (女性的)		社会的地位が高い (社会的地位が低い)	
		M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD
年齢低	I	3.74	(1.01)	2.56	(1.21)	2.60	(1.62)	5.22	(1.13)	3.58	(0.84)
	III	3.86	(0.78)	2.88	(1.45)	2.68	(1.57)	5.34	(1.14)	3.66	(0.75)
	V	3.54	(1.23)	2.72	(1.49)	3.00	(1.95)	5.18	(1.21)	3.74	(0.78)
	N	3.66	(1.26)	2.78	(1.53)	2.86	(1.90)	5.12	(1.44)	3.76	(0.89)
年齢高	I	4.05	(0.81)	2.81	(1.22)	2.76	(1.61)	5.03	(1.04)	3.78	(0.79)
	III	4.08	(1.12)	2.73	(1.39)	2.54	(1.39)	5.08	(1.09)	3.59	(0.76)
	V	4.00	(1.22)	3.24	(1.62)	2.38	(1.14)	5.03	(0.99)	3.92	(0.60)
	N	4.32	(1.08)	2.92	(1.46)	2.51	(1.37)	5.08	(1.12)	3.89	(0.57)